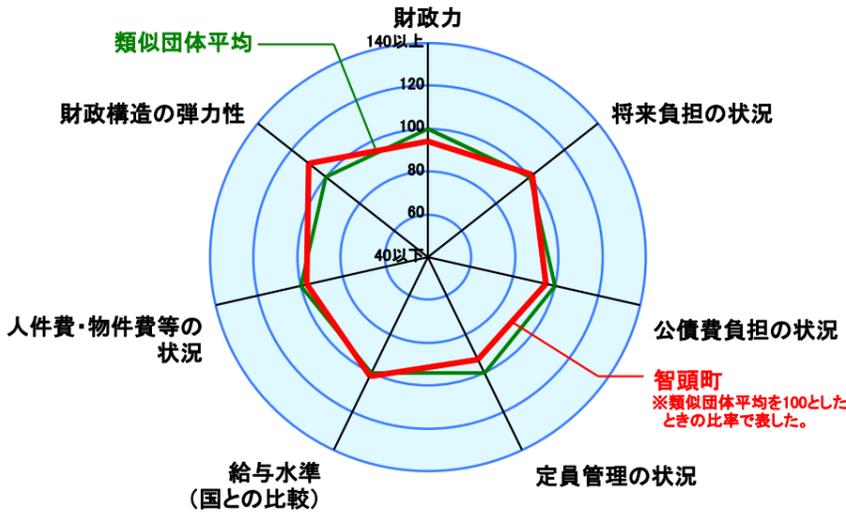
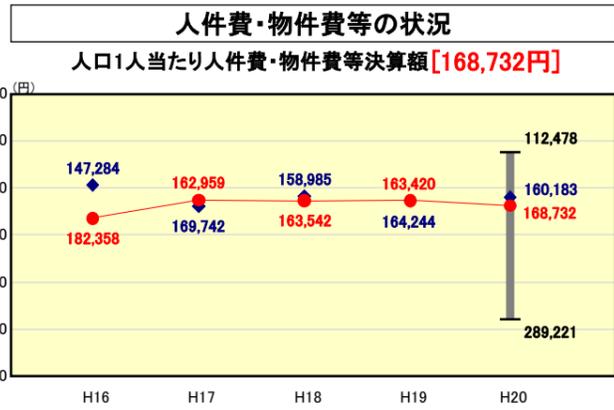
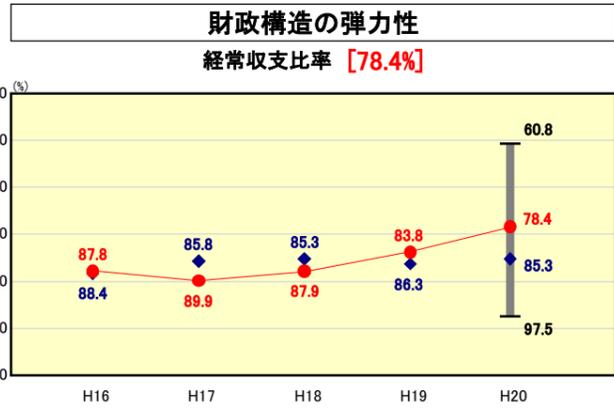
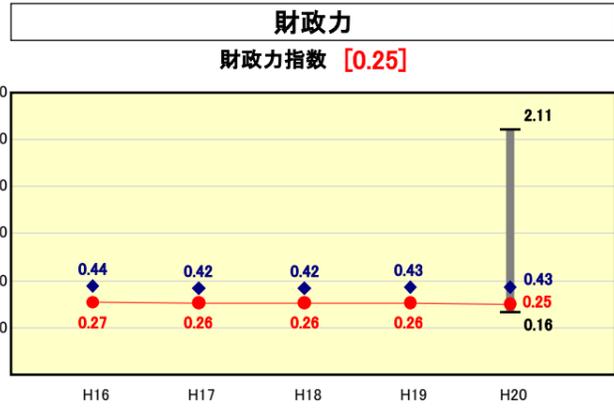


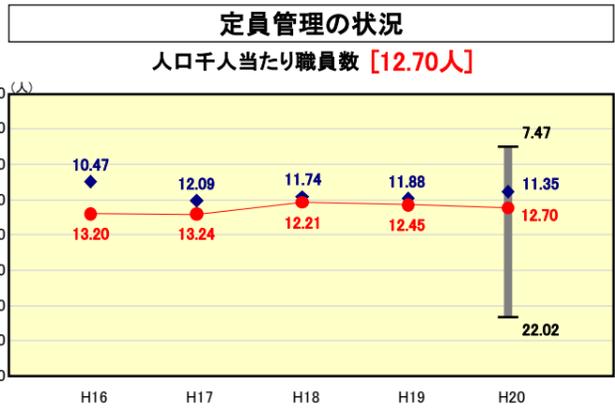
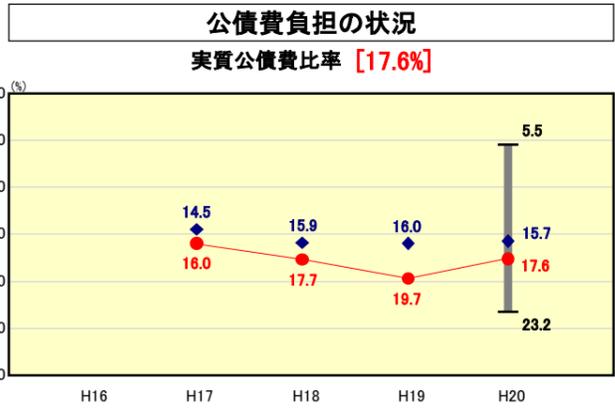
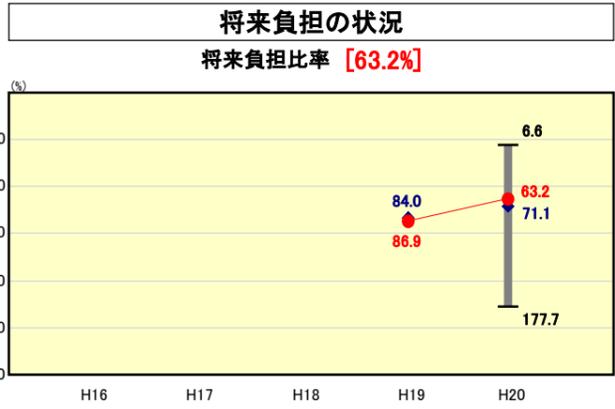
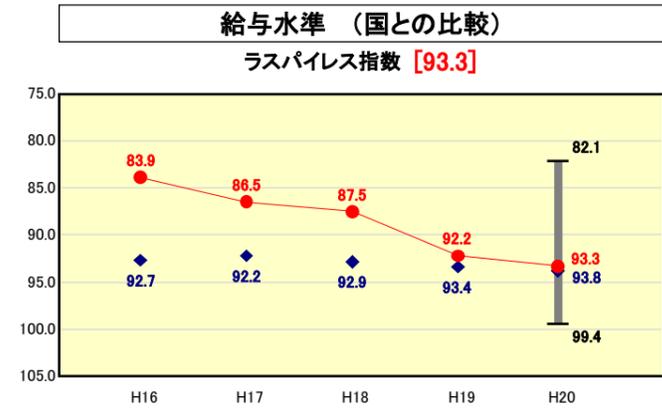
市町村財政比較分析表(平成20年度普通会計決算)

人口	8,424	人(H21.3.31現在)
面積	224.61	km ²
標準財政規模	3,431,887	千円
歳入総額	4,918,354	千円
歳出総額	4,528,709	千円
実質収支	276,590	千円

● 当該団体値
◆ 類似団体内平均値
┌ 類似団体内の最大値及び最小値



※類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。
※平成21年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率及び将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。
※充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。



※人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

分析欄

智頭町：類型Ⅱ-1(人口5,000人～10,000人、第2次・3次人口比率80%以上かつ第3次人口55%未満) 平成17年国勢調査数値：人口8,647人、第2次・3次人口比率89.6%、第3次人口比率48.2%

- ・財政力指数
人口の減少や法人関係の減収等により財政基盤が弱く、0.25と類似団体平均を大きく下回っている。退職者不補充等による職員数の削減や給与カットによる人件費の削減、投資的経費の抑制等歳出の削減を実施するとともに、町税等の滞納額圧縮など徴収業務の強化に取り組む。
- ・経常収支比率
平成15年度から実施している職員等の給与カットによる人件費の削減、事務事業見直しによる事業の廃止縮小等経常経費削減を図ったことにより78.4%と類似団体平均を下回っている。公債費については、平成19年度に償還のピークを越え、新規事業の抑制により今後縮減が見込まれる。また、事務事業の見直しを更に進め経常経費の削減に努め、町税等の収納率を向上させる等財源の確保に努めることにより、今後も経常収支比率の低下を図る。

- ・ラスパイレス指数
特別職20%～30%、一般職5.0%～9.5%の給与カット実施により、93.3と類似団体のなかでは低水準にあるが、今後もカット率の引き下げを検討しており、指数の増加も見込まれるため、今後も人件費縮減に向けた努力を行う。
- ・実質公債費比率
償還のピークを越え、起債許可団体移行基準である18%を超え19.7%となっていた実質公債費比率は17.6%と改善した。また、平成20年度に策定した公債費負担適正化計画に基づき、新規発行の抑制や、繰出金の抑制に努めることにより平成26年度には16.5%まで低下させる予定である。
- ・将来負担率
近年大型事業を実施しなかったため、類似団体平均をやや上回る63.2%となっているが、今後、地域情報化事業、小学校統合事業、中学校改築事業、保育園統合事業を予定しており、新規の地方債発行が見込まれるため、適切な事業実施時期の検討や事業規模の整理縮小等により、現在水準の維持に努める。

- ・人口1,000人当たり職員数
保育園が2園あること、給食センターの直営及び林業関係職員の配置等により類似団体平均をやや上回る12.70人となっている。今後行財政改革プランに沿って適切な定員管理に努める。
- ・人口1人当たりの人件費・物件費等決算額
類似団体平均をやや下回る168,732円となっているが、人件費の抑制とゴミ処理業務、し尿処理業務、消防業務を一部事務組合で行っていることが要因として考えられる。今後は、これらの業務も含めた経費についても抑制に努める。